

令和3年度教育活動方針

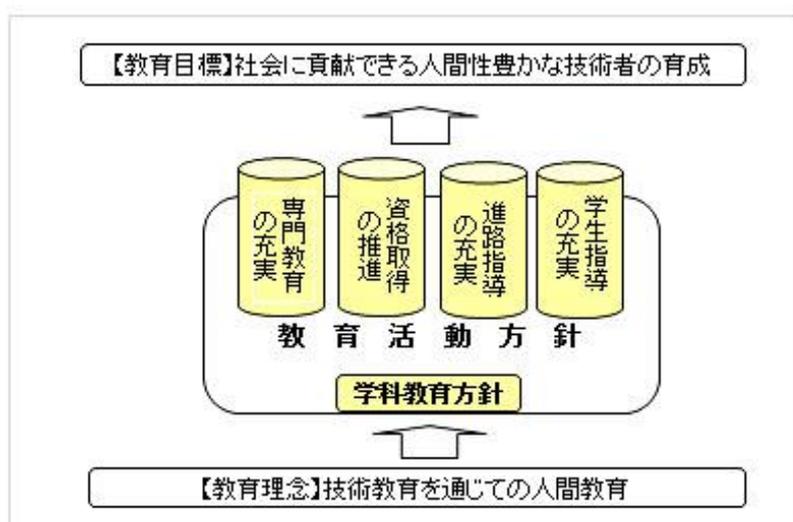
令和3年4月1日
岡山科学技術専門学校
校長 大月 秀之

I 教育理念

「技術教育を通じての人間教育」

II 教育体系

岡山科学技術専門学校では、専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動方針の柱とし、社会に貢献できる人間性豊かな技術者の育成を目指している。併せて教育活動を継続的に改善するため、PDCA サイクルを活用している。基本的な流れとしては校長の定める教育活動方針及び学科で作成する学科ガイドブック(Plan)を基に、教育活動を実施(Do)、年度末に自己点検(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となる。PDCA サイクルの要となる自己点検は、教職員に対するアンケート方式で毎年末に行っており、令和2年度の結果は5ページの「VI(参考資料)令和2年度教育活動方針に従った評価項目の達成及び取り組み状況」にまとめた。



III 令和2年度教育活動方針の概要と結果

(1) 令和2年度の教育活動方針の概要

令和元年度アンケート調査の結果から、学科ごと・個人ごとで、教育活動に対する取り組みに対する足並みがそろっていないことが明らかとなった。このため、カギセン教育の原点に立ち返り技術教育のあるべき姿を見直すことに力点を置き、またそれを行う教職員のあるべき姿を再構築することを目的にキーワードを「原点回帰」とし、また重点目標を以下に定めた。

重点項目

1. 6S管理の徹底
「躰」の徹底
2. 専門教育の充実
インターンシップの充実
教員間のコミュニケーションの促進
3. 学生指導の充実（学科教員間の意思の疎通、保護者や関係機関との連携）
保護者との連携と学生とのコミュニケーションの促進
4. 進路指導の充実（進路指導課と学科との連携）
学生のコミュニケーション能力の向上(挨拶の励行)
5. 留学生の指導・支援の充実（在学生の把握の徹底と卒業生の把握）
日本語能力の向上

6. 学生確保
オープンキャンパスの充実
7. 教職員の資質・能力の向上
資格取得の推進

(2) 結果

学生指導の充実、留学生の指導・支援の充実等を中心に平均値が上昇した項目が多く、一定の成果があったと考えている。特に躰教育やあいさつ指導など、1年を通じて行ってきた地道な活動に成果を感じている教職員がある程度いたことにも手ごたえを感じている。さらに令和3年度入試における日本人出願者が大きく増えたこともあり、学生の受け入れ募集に関する項目についても平均点が上昇した。一方でコロナ禍の影響は大きく、特に職場懇談会、インターンシップ、教職員研修、学校行事など三密になりやすいものは軒並み中止となったため、これらに関連する項目の平均点は大きく低下した。

IV 令和3年度のキーワード<継続>

平成19年に学校教育法が大きく改正され、学力の要素が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」の三つに拡大された。この中の「主体性・多様性・協働性」は非認知能力と呼ばれ、テストでは測ることができないスキルである。企業では往々にして勉強が出来る学生より、元気や社交性がある者の方が評価されることがあるが、非認知能力という言葉を使うと説明しやすい場合が多い。

令和3年度入学生は、この新しい学校教育法の下で育った第一世代となるので、これを機会に非認知能力を伸ばす教育に取り組んでゆきたい。また、アンケート調査からも教職員が躰やあいさつなどの忍耐力や社会性につながるような指導に成果を感じていることもあり、令和3年度のキーワードは「継続」とした。あいさつの励行、基本的な生活習慣の徹底などの基本的な事項から段階的、継続的に指導し、非認知能力の向上につなげたい。

V 令和3年度教育活動方針の重点課題

1 6S管理の徹底

(1) 項目ごとの概要

- ① 職員室（事務室も含む）の整理整頓
全般には向上しているが、もう一步の改善を目指したい
- ② HR教室の整理整頓
一部の教室で改善の必要がある
- ③ 高柳校舎実習場、昭和町校舎実習場の整理整頓清掃
全般的に向上しているので現状維持を目指す
- ④ 学生が意欲をもって取り組む、わかりやすい授業
改善の余地がある
- ⑤ 授業、校外実習において、事故の無いよう細心の注意を払う
全般的に向上しているので現状維持を目指す
- ⑥ 挨拶や授業態度などのマナー、躰教育に継続的に取り組む
全般には向上しているが、もう一步の改善を目指したい
- ⑦ 安全を意識した指導の徹底
全般的に向上しているので現状維持を目指す

(2) 重点課題

この項目の中では「④学生が意欲をもって取り組む、わかりやすい授業」の自己評価が一番低かったので、令和3年度はこれを重点課題としたい。

2 専門教育の充実

(1) 項目ごとの概要

- ① 教える内容を精査し、基礎・基本の定着を図る
全般には向上しているが、もう一步の改善を目指したい
- ② 個々の能力を伸ばすため、学生が主体的に学ぶ授業を工夫
改善の余地がある

- ③ 職業教育の充実に向けた取り組みを計画的に行う
改善の余地がある
- ④ 身に付けさせる能力について学科内で話し合う
全般には向上しているが、もう一步の改善を目指したい
- ⑤ 企業と連携した実習を効果的に行う
改善の余地がある
- ⑥ 企業と連携したインターンシップを効果的に実施する
改善の余地がある
- ⑦ 目指す資格を明確にする
ほぼ明確になっている
- ⑧ 学科を挙げた組織的な指導
全般的に向上しているので現状維持を目指す

(2) 重点課題

社会の変化に対応できる実践的教育を目的に、企業との連携やインターンシップを実施してきたが、令和2年度はコロナの影響もあり十分に行うことができなかった。令和3年度は、感染状況を確認しながら、これらの項目を積極的に進めたい。

3 学生指導の充実

(1) 項目ごとの概要

- ① 挨拶の徹底
全般には向上しているが、もう一步の改善を目指したい
- ② 授業を工夫して学ぶ意欲の高揚を図る
改善の余地がある
- ③ 真面目に授業を受けるように指導
改善の余地がある
- ④ 個人面談や声掛けを重視し学生把握に努める
全般的に向上しているので現状維持を目指す
- ⑤ 保護者との連携を密にしてきめ細やかな指導を行う
全般には向上しているが、留学生の指導は国際課等と連携して行う
- ⑥ 禁煙指導や感染症予防等の健康管理に努める
留学生の喫煙率が高いので、国際課等と連携して健康管理に努める。

(2) 重点課題

問題のある学生に対しては、保護者との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立や授業を大切に指導を行ってきたが、共働き家庭や留学生の増加により従来通りの対応が難しくなってきた。令和3年度においても学生とのコミュニケーションを促進し、信頼関係を構築することと、問題点を早めに見つけることを目指し、状況の改善に取り組む。

4 進路指導の充実

(1) 項目ごとの概要

- ① 進路指導課と学科の連携強化
一人ひとりの適性を生かす就職支援を推進するため、一層の連携を図る
- ② 企業訪問を積極的に行う
改善の余地あり
- ③ 一般教養の充実
特に留学生に対し改善の余地あり
- ④ ビジネス教養の充実に努める
改善の余地あり
- ⑤ 卒業生の動向確認
同窓会、企業後援会との連携を密にし、就職支援に役立てる
- ⑥ 同窓会と連携した職場定着を目指す
同窓会、企業後援会との連携を密にし、職場定着に役立てる

(2) 重点課題

令和3年度も一人ひとりの適性に合わせた就職支援を目指す。また、就職状況が悪化する

ことが懸念されるため、企業訪問等を積極的に行うなどの対応策も実施したい。

5 留学生の指導・支援の充実

(1) 項目ごとの概要

- ① 日本語能力向上のための組織的、計画的な指導
改善の必要あり
- ② 進学指導の充実
改善の必要あり
- ③ 専門科目の指導の充実
改善の必要あり
- ④ 就職に向けたガイダンスやインターンシップの実施
全体的に向上しているが、改善の余地あり
- ⑤ 生活実態の把握と支援
全体的に向上しているが、改善の余地あり
- ⑥ 文化や言語の理解を深めるための研修
改善の必要あり

(2) 重点課題

令和3年度は留学生の日本語会話力の充実に努めることに力点を置いて取り組みたい。

6 学生確保

(1) 項目ごとの概要

- ① 多角的な情報分析、計画的な高校訪問等が出来ているか
改善の余地あり
- ② 広報企画課と学科との情報交換を密にし、学科情報の効果的発信に努めているか
改善の必要あり
- ③ オープンキャンパスの充実に図り歩留率の向上に努めているか
全体的に向上している

(2) 重点課題

令和3年度入学試験の日本人出願者が大きく増加(99名→159名)するなどの成果が見られた。令和3年度においては広報企画課との情報交換の頻度を上げ、一層の入学者増を目指したい。

7 教職員の資質・能力の向上

(1) 項目ごとの概要

- ① 年三回の教職員面談
全体的に向上している
- ② 校内の教職員研修、企業研修への積極的参加
改善の余地あり
- ③ 公開授業の充実
改善の余地あり
- ④ 資質能力、指導力向上のための資格取得への挑戦
改善の余地あり

(2) 重点課題

令和3年度は、新型コロナの感染状況を確認しながら積極的に研修を行うとともに、資格試験への挑戦を奨励したい。